芥川龍之介歌集

芥川龍之介

V2 Solution

目次

紫天鵞絨 ―― 5
桐（To Signorina Y. Y.） ―― 9
薔薇 ―― 13
客中恋 ―― 17
若人（旋頭歌） ―― 21
砂上遅日 ―― 25

紫天鵞絨

やはらかく深紫の天鵞絨(ビロウド)をなづる心地か春の暮れゆく

いそいそと燕もまへりあたゝかく郵便馬車をぬらす春雨

ほの赤く岐阜提灯もともりけり「二つ巴」の春の夕ぐれ（明治座三月狂言）

戯奴(ジョーカー)の紅き上衣に埃の香かすかにしみて春はくれにけり

なやましく春は暮れゆく踊り子の金紗の裾に春は暮れゆく

春漏の水のひゞきかあるはまた舞姫のうつとほき鼓か（京都旅情）

片恋のわが世さみしくヒヤシンスうすむらさきににほひそめけり

恋すればうら若ければかばかりに薔薇（さうび）の香にもなみだするらむ

麦畑の萌黄天鵞絨一芥子（けし）の花五月の空にそよ風のふく

五月来ぬわすれな草もわが恋も今しほのかににほひづるらむ

刈麦のにほひに雲もうす黄なる野薔薇のかげの夏の日の恋

うかれ女のうすき恋よりかきつばたうす紫に匂ひそめけむ

桐（To Signorina Y. Y.）

君をみていくとせかへしかくてまた桐の花さく日とはなりける

君とふとかよひなれにしあけくれをいくたびふみし落椿ぞも

広重のふるき版画のてざはりもわすれがたかり君とみればか

いつとなくいとけなき日のかなしみをわれにおしへし桐の花はも

病室のまどにかひたる紅き鳥しきりになきて君おもはする

夕されば あたごホテルも灯ともしぬ わがかなしみをめざまさむとて

草いろの 帷(とぼり)のかげに灯ともしてなみだする子よ 何をおもへる

くすり香もつめたくしむは病室の窓にさきたる

※［＃「さんずい＋自」、第3水準1-86-56］芙藍《サフラン》の花

青チヨオク ADIEU と壁にかきすてゝ 出でゆきし子のゆくゑしらずも

その日さりて消息もなくなりにたる風騒(ふうそう)の子をとがめたまひそ

いととほき花桐の香のそことなくおとづれくるをいかにせましや

薔薇

すがれたる薔薇(さうび)をまきておくるこそふさはしからむ恋の逮夜は

香料をふりそゝぎたるふし床より恋の柩にしくものはなし

にほひよき絹の小枕(クッサン)薔薇色の羽ねぶとんもてきづかれし墓

夜あくれば行路の人となりぬべきわれらぞさはな泣きそ女よ

其夜より娼婦の如くなまめける人となりしをいとふのみかは

わが足に膏(あぶら)そゝがむ人もがなそを黒髪にぬぐふ子もがな（寺院にて三首）

ほのぐらきわがたましひの黄昏をかすかにともる黄蝋もあり

うなだれて白夜の市をあゆむ時聖金曜の鐘のなる時

ほのかなる麝香(じやかう)の風のわれにふく紅燈集の中の国より

かりそめの涙なれどもよりそひて泣けばぞ恋のごとくかなしき

うす黄なる寝台の幕のものうくもゆらげるまゝに秋は来にけむ

薔薇よさはにほひな出でそあかつきの薄らあかりに泣く女あり

客中恋

初夏の都大路の夕あかりふたゝび君とゆくよしもがな

海は今青きをしばたゝき静に夜を待てるならじか

君が家の緋の房長き燈籠も今かほのかに灯しするらむ

都こそかゝる夕はしのばるれ愛宕ほてるも灯をやともすと

黒船のとほき灯にさへ若人は涙落しぬ恋の如くに

幾山河さすらふよりもかなしきは都大路をひとり行くこと

憂しや恋ろまんちつくの少年は日ねもすひとり涙流すも

かなしみは君がしめたる其宵の印度更紗（いんどさらさ）の帯よりや来し

二日月君が小指の爪よりもほのかにさすはあはれなるかな

何をかもさは歎くらむ旅人よ蜜柑畑の棚によりつゝ

ともしびも雨にぬれたる甃石(しきいし)も君送る夜はあはれふかゝり

ときすてし絽の夏帯の水あさぎなまめくまゝに夏や往にけむ

若人（旋頭歌）

うら若き都人こそかなしかりけれ。失ひし夢を求むと市(まち)を歩める。

橡(マロニエ)の花もひそかにさけるならじか。夢未多かりし日を思ひ出でよと。

たはれ女のうつゝ無げにも青みたる眼か。かはたれの空に生まるゝ二日の月か。

しのびかに黒髪の子の泣く音きこゆる。初恋のありとも見えぬ薄ら明りに。

さばかりにおもはゆげにもいらへ給ひそ。緋の房の長き団扇にかくれ給ひそ。

なつかしき人形町の二日月はも。若う人の涙を誘ふ二日月はも。

いとせめて泣くべく人を恋ひもこそすれ。黄蝋の涙おとすと燃ゆる如くに。

湯沸器(サモワル)の湯気もほのかにもの思ふらし。我友の西鶴めきし恋語りより。

ほゝけたる花ふり落す大川楊(おほかはやなぎ)。水にしも恋やするらむ大川楊。

香油よりつめたき雨にひたもぬれつゝ。たそがれの銀座通をゆくは誰が子ぞ。

恋すてふ戯れすなる若き道化は。かりそめの涙おとすを常とするかも。

何時となく恋もものうくなりにけらしな。移り香の（憂しや）つめたくなりまさる如。

砂上遅日

うつゝなきまひるのうみは砂のむた雲母(きら)のごとくまばゆくもあるか

八百日ゆく遠の渚は銀泥(ぎんでい)の水ぬるませて日にかゞやくも

きらゝかにこゝだ身動(みぢろ)ぐいさゝ波砂に消(け)なむとするいさゝ波

いさゝ波一生(あ)れも出でねと高天(たかあめ)ゆ光はちゞにふれり光は

光輪(くわうりん)は空にきはなしその空の下につどへる蜑(あま)少女はも

むらがれる海女(あま)らことごと恥なしと空はもだしてかゞやけるかも

うつそみの女人眠るとまかゞよふ巨海(こかい)は息をひそむらむかも

荘厳(しやうごん)の光の下にまどろめる女人の乳こそくろみたりしか

いさゝ波かゞよふきはみはろばろと弘法麦の葉は照りゆらぎ

きらゝ雲むかぶすきはみはろばろと弘法麦の葉は照りゆらぎ

雲の影おつるすなはちふかぶかと弘法麦は青みふすかも

雲の影さかるすなはちはろばろと弘法麦の葉は照りゆらぎ

芥川龍之介歌集

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日　初版第一刷発行

著　者　芥川龍之介
発行者　谷村勇輔
発行所　ブイツーソリューション
〒四六六・〇八四八　名古屋市昭和区長戸町四・四〇
電　話〇五二・七九九・七三九一
ＦＡＸ〇五二・七九九・七九八四

発売元　星雲社
〒一一二・〇〇一二　東京都文京区大塚三・二一・一〇
電　話〇三・三九四七・一〇二一
ＦＡＸ〇三・三九四七・一六一七

印刷所　印刷所は印刷部数によって変わります

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替えいたします。
ブイツーソリューション宛にお送りください。
©Kenji Miyazawa　Printed in Japan
ISBN000-0-000-00000-0